

第2回宇宙活動に関する法制検討ワーキンググループ議事要旨

- ◎ 日 時：平成21年1月26日（月）16：00～18：02
- ◎ 場 所：中央合同庁舎第7号館905B会議室
- ◎ 出席構成員：（敬称略、50音順）
小菅敏夫（主査）、青木節子、浅田正一郎、川島レイ、小塚莊一郎、佐々木学、
白井恭一、田中俊二、西口浩、福永哲雄
- ◎ オブザーバー：内閣府、総務省、外務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省、
独立行政法人宇宙航空研究開発機構
- ◎ 議事要旨：
 1. 開会
 2. 宇宙活動法が対象とすべき宇宙活動について
資料1について事務局より説明が行われた。
 3. 宇宙物体登録の意義について
資料2について青木節子構成員より説明が行われた。
 4. 宇宙物体登録について
資料3について事務局より説明が行われた。議事2及び3と併せて議論が行われ、資料1
及び3については、今回の意見を踏まえ、また、引続き構成員及びオブザーバーとの調整を
経て修正の上、次回以降、それをたたき台に引続き検討を続けることとされた。主な質疑応
答及び意見は以下のとおり。
 - 宇宙物体登録に関係する義務のうち保有する人工衛星が消滅した場合の処置について、
大学等の保有する人工衛星を念頭に置いた場合、「消滅」とは具体的にどのような状況
を想定しているのか、人工衛星を保有する者がいなくなった場合の行政庁への情報提供
は、どのように提供義務を担保するのか、義務に違反した場合は罰則を科すことを想定
しているのかについて質問があり、「消滅」とは軌道上に存在しなくなった場合を想定
していること、人工衛星の運用に関する許可・監督の態様などの詳細については、次回
以降議論する予定である旨回答があった。
 - 人工衛星が消滅した場合の定義について「軌道上からデオービットした場合を含む」と
あるが、提出を義務付ける変更情報の範囲については、慎重な議論が必要ではないかと
の意見があった。
 - 宇宙物体登録の対象となる宇宙物体にロケットの第2段を含めることについて、打上げ
事業者としての負担は増える可能性があるが、中国やインドでも初期情報の通報は行っ
ているという国際的な状況に鑑み、デブリ監視の観点からも前向きに検討すべきとの意
見があった。
 - 宇宙活動法の適用対象とする宇宙物体や宇宙活動の定義において、高度100キロメー

トル以上と区切っているのはどのような意図があるのかとの質問があり、宇宙活動法の適用対象を便宜的に線引きしたものであり、宇宙空間の範囲を画定する意図は全くない旨回答があった。

- 宇宙物体の登録と損害賠償責任の関係について、両者は別の条項を根拠にした別の制度であることから、宇宙物体登録を行うことが直接損害賠償責任の発生に結びつくものではないとの意見があった。
- 宇宙活動法における宇宙物体の定義には、弾道軌道を飛行する有人宇宙機やロケットの打上げに際し地表に落下するロケットの構成部品は、含まれるのかとの質問があり、含まれると解しているとの回答があった。
- 宇宙関係条約においてルールが明確に固まっていない事項について、国内法の策定に当たっては、その時点での国際動向に沿って議論をする必要があり、その観点から、ロケットの第2段など打上げ時の非機能物体を宇宙物体登録することや、宇宙空間の画定とは別に100キロメートル以上の高度で宇宙活動を区切ることについては、国際動向と基本的な方向性を異にするものではないと解してよいかとの質問があり、概ねそのとおりである旨回答があった。

5. 宇宙活動法への要望について

資料5について田中俊二構成員より説明が行われ、宇宙産業の振興に係る法制の検討の必要性について要望があり、以下の議論の結果、今後の宇宙開発戦略専門調査会での議論も踏まえて、本WGにおいても産業振興の観点を十分に考慮して議論していくという方針が確認された。

- 民間による宇宙活動を促進するためには、「器」としての宇宙活動法と、「中身」としての関連施策の充実を同時に図ることが重要であり、規制緩和や官需による下支えについて今後検討を進めるべきとの意見があった。
- H2Aロケットは、既に信頼性、コストの面で欧米に比肩できるが、サービス提供の面で課題があり、商業ベースでの受注促進のためには、打上げ時期の制約の緩和、射場へのアクセス手段の改善、規制手続きの簡便化による利用者の負担低減が必要との意見があった。
- 衛星測位サービスの向上についても議論すべき旨意見があった。
- リモセン画像提供事業の振興のためにも何らかの施策が必要である旨意見があった。

6. その他

本日の議論について、追加意見等があれば、文書にて事務局に提出することとされた。次回の会合については、3月12日(木)14:00~16:00に開催することとされた。

7. 閉会

以 上